

明治十五年第三百三十六号

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/499

明治十五年三月二十六日

裁判官渡書

控訴人

長崎縣肥前國長崎區本龍町廿六番戸
平民垣田折吉代人同縣平民

井元秀一

被控訴人

同縣月國月區月町七拾三番戸平民池
崎吉次代言人

中山又二郎

被控訴人

同縣月國月區月町三十六番戸平民

山口リ工

長崎控訴院

引合人

同縣月國月區今魚町廿一番戸平民河
村千力總理代人同縣月國區彼杵郡長
崎村西山御千五百五十八番地平民

高松榮

家賃金并ニ敷金及ニ家屋賣度ノ詞訟ニ付長崎
地審裁判所ノ判決ヲ不服ナリトシ控訴セシ
如ク兩造ノ申供并ニ引合人河村千力代人高松
榮力供述ト提舉ノ証據トニ基キ一件審理ヲ遂
クル處

第一項本件詞訟ノ原因ヲ為セシ長崎區本龍町

廿六番戸家屋ハ引合人河村千力養父河村善
次力明治二年中ニ建築セシモノニシ其敷地



ハ被控訴人山口工ヨリ借受ケシモノナリ
然ルニ明治六年中善次ハ病死シ跡ニ其母正
イナル者残りアリシモ既ニ八十有三歳ノ老
齡者ニシテ家事ヲ管ムヘキ十分ノ能力ナク
且ツ明治七年十一月二日ニ物故セルヲ以テ
被控訴人池崎吉次ハ善次カ養子當時横濱港
ニ滞在シ河村和三郎ヨリ依頼ヲ受ケ該家産
等ヲ管理シ則チ明治七年十月中控訴人垣田
柳吉ニ之ヲ貸渡シ之レカ敷金及ヒ地料家賃
等ノ取入レ並ニ違拂ヒ且ハ裏家賣却ノハ迄
ニ取計ヒ在葺明治十四年ニ迄之レカ管理ヲ
連續セシハ其経過ノ實跡ト証候トニ依テ明
認スルニ足ル

長崎控訴院

第三項河村善次カ明治六年ニ死去セシ跡ハ明
治十四年八月ニ至リ初テ河村千カニ承テ之
ヲ相續セシナリ尤モ千カハ明治五年ヨリ八
年三月ノ頃迄娼妓稼ノ爲メ他ニ出テ其後
チカ総理代人高松栄ト夫婦ノ因ミテ爲シ實
際學方ニ立越シアリシモノナリ

第三項被控訴人山口正ハ明治七年十月以降
地料トシテ控訴人カ拂入シ金貨百貳拾圓ヲ
請取リタルモ這ハ河村家相續人ナキ時ニ就
テ其管理人ナル池崎吉次協議ノ上受領セシ
モノナリ

判決

前數項ノ事實ニ於ル如ク被控訴人池崎吉次ハ

正徳
三年
八月
廿二日

當時管理責任上ヨリ其事ニ関係セシモ最早
其責任ヲ解除セシモノナレハ今ニ至テ亦訴テ受
クヘキノ道理ナク又山口リ正ハ當座其全負テ
受領セシモノナレハ授訴人ニ於テ之レカ取戻
テ訴フヘキノ權利ナキニヨリ該訴者ハ總テ相
立

訴訟入費ハ成規ノ通り控訴人ニ於テ負擔ス
ヘシ

主任判事石田篤満

印

副主任判事石巻清隆

印

書記古屋美順

印

明治五年十月廿二日

長崎控訴院

右勝手書ス

明治二十六年七月

長崎控訴院

書記池邊源太郎

印

長崎控訴院
印

印